ご挨拶

理事長退任にあたって

公益財団法人 財務会計基準機構
前理事長
萩原（はぎわら） 敏孝（としたか）

私は、2004年11月に公益財団法人財務会計基準機構（以下「当財団」という。）の第2代理事長に就任しましたが、このたび2013年6月14日の評議員会の終結をもって退任いたしました。この間、当財団の会員の皆様をはじめとした関係者の方々のご協力により、大過なく、理事長としての責務を全うできましたことを改めて御礼申し上げます。特に、当財団の設立に支援いただいた団体には、当財団の運営に多大なご協力をいただき、心より感謝しております。

在任期間中、我が国の会計基準をめぐっては、激変ともいえる様々な動きがありました。理事長に就任した当初は、EUによる我が国会計基準と国際会計基準（IFRS）の同等性の評価が行われていたこともあり、我が国の会計基準とIFRSのコンバージェンスの取組みが行われていました。それが、2009年に金融庁が「我が国における国際会計基準の取扱いに関する意見書（中間報告）」を公表した以後は、IFRSを我が国で適用すべきか否かの議論が我が国会計制度における課題の中心となっています。

当財団では、これらの議論に積極的に対処し、当財団内にある企業会計基準委員会（ASBJ）の活動を支援するために、「単体財務諸表に関する検討会議」や「アジェンダ・コンサルテーションに関する協議会」を開催し、関係者の意見集約を行いました。

また、2012年には関係者の方々にご協力いただき、IFRS財団のロンドン以外では初となるアジア・オセアニアオフィスを東京に誘致することができました。

当財団は、2009年に公益財団法人としての認定を受けており、より公共性の高い組織となっています。当財団の活動は、会員の方々からの会費収入にまかなわれており、我が国における資本市場及び会計制度の発展のために、会員の皆様の期待に応えるべく、微力ながら注力してまいりました。

今後は、釜新理事長のもと、財務会計基準機構および企業会計基準委員会のますますの発展をお祈りしております。最後に、改めて、関係者の皆様のこれまでのご支援とご協力に深く感謝いたします。